

授業研究部会

実践者と研究者による授業研究のプロセス Vol.2

Lesson Study Process by Art Education Practitioners and Researchers Vol.2

畠山 未央（事務局）

HATAYAMA Mio

東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 博士課程

Doctoral Course The United Graduate School of Education Tokyo Gakugei University

1. 東京大会からのつながり

授業研究部会では、主に2つの柱から成る研究活動を始動させている。

- ①学校現場の先生方との継続的・実践的な共同研究活動
- ②研究の拠点の拡充と、東京以外の地域間との連携も見据えた学術的な強化

令和3(2021)年度の東京大会では、上記の研究活動に対する今後を見据えることを目的に、共同研究のあり方や「研究上の問い合わせ」の意義・課題などを俎上に載せたパネルディスカッションを開催した¹。開催テーマは、授業実践者と学術研究者が共創関係にあること、そして研究成果だけでなく、むしろそこに至るプロセスを大切にしていくことを意味して設定している。令和4(2022)年度の開催テーマは、その意図を引き継いで“Vol.2”を付したものである。

2. 兵庫大会における射程

兵庫大会では、現場の先生方が日ごろ抱いている“リサーチ・クエスチョン”から出発し、そしていま遂行に向かっている研究活動の「課題解決のプロセス」に焦点化した議論を展開していく。また、当部会の研究活動について客観的な視点から議論と展望を開きたく、指定質問者として隅 敦先生（富山大学）をお迎えする。

【開催骨子1】実践者による研究のプロセス

当部会が共同で研究活動を進めている学校現場の先生方のうち、2名の先生の研究を対象として、「授業研究上の迷いや悩み」、「試行錯誤」、「仮説と検証のサイクル」などを話題にしながら研究メンバーやフロアの方々を交えたディスカッションを行う。

なお、「開催骨子1」は、口頭発表と連動させていく。すなわち、ご登壇いただく2名の先生方は第45回美術科教育学会にて口頭発表²を行うとともに授業研究部会にもご登壇いただき、研究のプロセスを開陳しながら議論を展開する。

【開催骨子2】授業研究者による談話を分析するための方法論

これまでの授業研究では、学習者・指導者等の行いが主な対象であることが多く、授業研究を実施する「授業研究者」の思考や関心の傾向等を研究対象とされることは稀有であったと考えられる。そこで当部会では、授業研究を行う実践者（研究者）による研究談話を試行的に分析した。そこから得られた授業研究への方法論的示唆と今後の研究活動の展望を共有していく。

3. 令和4(2022)年度 開催概要

- ◆開催：2023年3月26日（日）16:50～19:00
- ◆方法：Zoomミーティング（事前申し込み有）
- ◆プログラム（予定）：

時間	内容
16:50～	Zoom入室開始
17:00～17:10	開会の挨拶、開催趣旨について
17:10～17:30	実践者による研究のプロセス① 栗津謙吾（成城学園初等学校）、永繩啓太（横浜市立南太田小学校）
17:30～17:50	実践者による研究のプロセス② 山内佑輔（新渡戸文化学園）、湯瀬明意（川崎市立渡田中学校） 実践者による授業研究のプロセス①②コーディネーター：石賀直之（東京造形大学）
17:50～17:55	休憩
17:55～18:25	研究者による談話を分析するための方法論 竹内晋平（奈良教育大学）、藤井康子（大分大学） 指定質問者：隅敦（富山大学）
18:25～18:30	休憩
18:30～19:00	フロアとの談話 栗津謙吾、山内佑輔、隅敦 フロアとの談話コーディネーター：岡照幸（国立音楽大学附属小学校）

以上の議論を通して、日々我々が意識している子どものための授業研究とその問い合わせの意義を考えていく機会を創出する。

¹ 「令和3年度 研究部会活動報告 授業研究部会」、美術科教育学会通信 No.110, p.36

² ①栗津謙吾「国画工作科の授業における個に応じた指導に関する一考察 逐語分析に基づく児童の思考の変容に着目して」

②山内佑輔「造形表現における例示語を用いた子どもの意識調査とその分析」（栗津発表：3/27,9:00-, 山内発表：3/27,16:00-）